

ルカによる福音書 21 章 1 節～9 節

●世界にはロシアとウクライナ以外にも戦争や内戦の続く土地があります。その一つがミャンマーです。ミャンマーは 1948 年イギリスからの独立以降、軍によるクーデターが続き、今日に至るまで不安定な国内情勢が続いています。

写真家の東邦定さんはそのような厳しい歴史と現実の中を生きるミャンマーのカーヤー州の人々の写真を撮るうちに、人々が仏教の教えに希望を置き、「来世を見据えて生きている姿」に心を打たれ、日頃自分は何を見据えて生きているのかを考えさせられたそうです。

●今日の聖書でイエス様は「惑わされないように」と言われました。それは当時の人々の目がこの世の様々なものに惑わされていたからです。

今日の聖書箇所には「やもめの献金」の話が記されています。当時神殿に置かれた賽銭箱は音で人々がどれだけお金を入れたかわかるようになっており、人々は金持ちが大きな音を鳴らして捧げる献金には目をとめ、貧しいやもめの献金は軽蔑するような状況があったのです。また、人々は大規模に改築されたきらびやかで荘厳な神殿に見惚れていました。しかし、イエス様は「あなた方はこれらの物に見とれているが、この全てが崩される日が来る」と言われ、後にさらに悲惨な世の終わりのような状況が訪れるのだと話されたのです。イエス様が言われた「惑わされないように気をつけなさい」と言う言葉の「気をつけなさい」は原文では「注意深く見る」という言葉が使われています。イエス様は、人々に常にどこに目を向けるべきなのかということを今日の箇所を通して教えておられるのです。

●このルカ福音書が書かれた時代にはすでにエルサレム神殿は崩壊し、キリスト者への迫害も厳しくなってきた時代でした。人々はまさに全てを崩されるようなその苦難の中で、同じくこの世の苦難を耐え抜かれたイエス様の姿を確かに信仰の目で見つめて生き抜いていったのです。

●いつの時代でも私たち人間はこの世の力あるもの、見栄えの良いものにばかり目を奪われ、それにより頼もうとしてしまいます。そして、それらの物が崩される時にはうろたえてしまいます。しかし聖書は、この世の者が崩れ去るその時にも、どんな時にも決して変わることはない、主の愛と恵みに固く目を据え、命を得なさい、と語りかけておられるのです。日頃からこの世のものに惑わされることなく、ただ主に目を見据えて生きる歩みを続けていきたい。そう願います。